

令和6年度県政モニターアンケート調査結果の概要

1 調査概要

- (1) 調査名称 環境の保全、みどりの保全についてのアンケート
 (2) 調査時期 令和6年6月1日～令和6年6月14日
 (3) 調査対象 県内在住の15歳以上の県政モニター349名
 (4) 調査方法 インターネット及び郵送
 (5) 回収状況 349名/445名=78.4%
 (6) 回答者内訳 性別：男性 141名、女性 207名
 年代別：30代以下 86名、40～50代 148名、60代以上 115名
 (7) 調査内容

問	アンケート内容
1	地域で実施される環境保全活動について
2	
3	地域で実施される環境学習について
4	
5	環境に関する情報発信について
6	ボランティア等（環境保全活動、環境学習以外も含む）の実施について
6-1	
7	環境を守り育てる地域づくりについて
8	二酸化炭素の排出削減に向けた行動について
9	
10	
11	3Rの推進について
12	
13	生物多様性について
14	生物多様性に配慮した行動について
15	生物多様性の保全について
16	現在の生活環境（大気のかれいさ・水のかれいさ・騒音の少なさ）について
17	
18	県産木材について
19	県産木材の利用について
20	
21	香川県のみどり（森林・公園など）について
22	香川県のみどり（森林・公園など）の充実に向けた県の施策について
23	森林ボランティア活動について
24	

【参考】 前回・前々回調査との比較

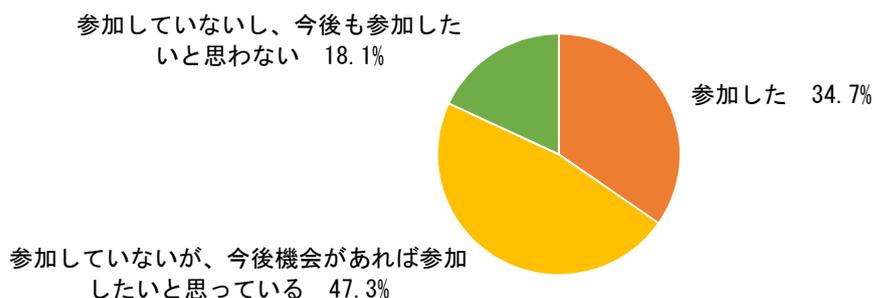
区分		平成 26 年度	令和元年度	令和 6 年度
調査時期		H26.7.18～8.1	R1.7.9～7.23	R6.6.1～6.14
調査対象		254 名	319 名	445 名
調査方法		インターネット・郵送	インターネット・郵送	インターネット・郵送
回収状況		89.0% (226 名/254 名)	83.1% (265 名/319 名)	78.4% (349 名/445 名)
回答者内訳 (性別)	男性	76 名	125 名	141 名
	女性	150 名	140 名	207 名
	性別不明	—	—	1 名
回答者内訳 (年代別)	30 代以下	79 名	74 名	86 名
	40～50 代	81 名	79 名	148 名
	60 代以上	66 名	112 名	115 名

2 調査結果

【問1】地域で実施される環境保全活動について

(この1年間で、地域で実施される環境保全活動に参加したかについて、3つの答えの中から1つ選択)

「参加していないが、今後機会があれば参加したいと思っている」と答えた方が最も多く(47.3%)、次いで「参加した」(34.7%)となっており、「参加していないし、今後も参加したいと思わない」と答えた方は少ない(18.1%)。

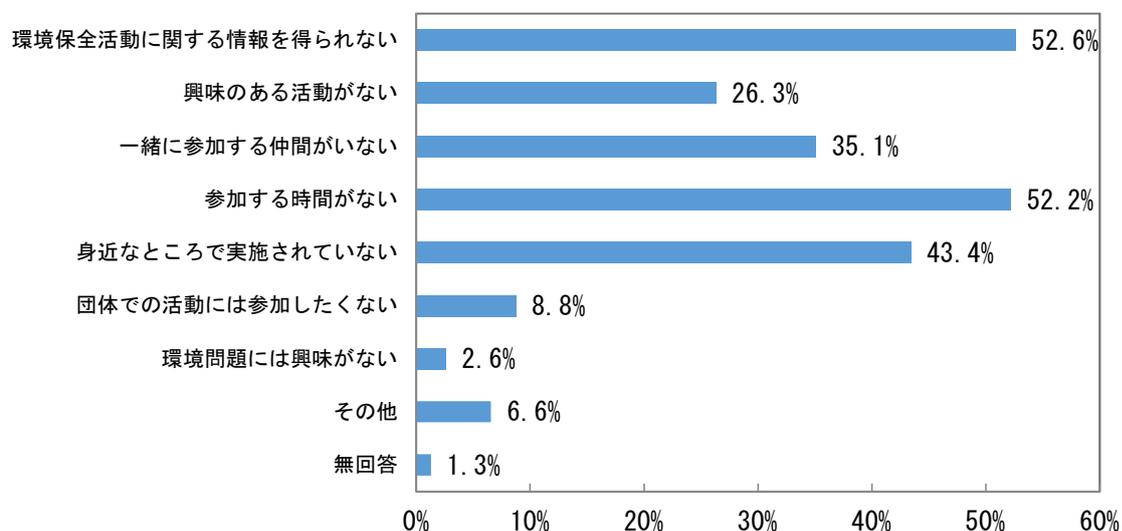


【問2】地域で実施される環境保全活動について

(問1で「参加していないが、今後機会があれば参加したいと思っている」または「参加していないし、今後も参加したいと思わない」と答えた場合、参加していない理由を、8つの答えの中から3つまで選択)

「環境保全活動に関する情報を得られない」と答えた方が最も多く(52.6%)、次いで「参加する時間がない」(52.2%)、「身近なところで実施されていない」(43.4%)、「一緒に参加する仲間がない」(35.1%)の順となっている。

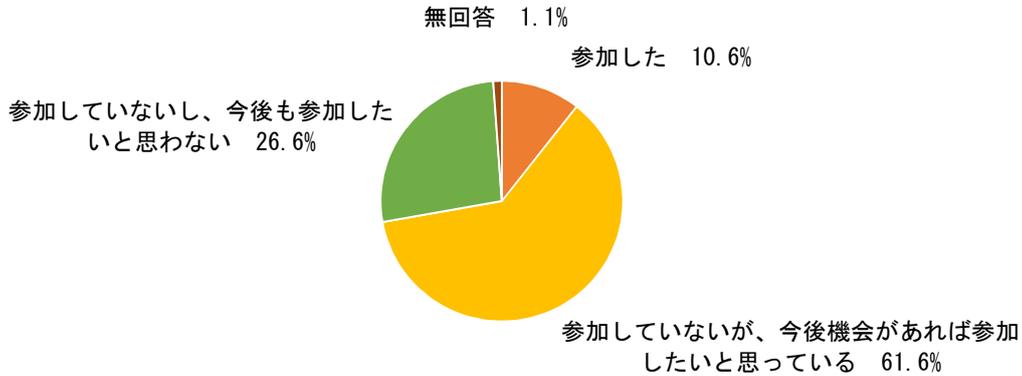
いずれの年代でも、この4項目を選択する割合は高い。



【問3】地域で実施される環境学習について

(この1年間で、地域で実施される環境学習に参加したかについて、3つの答えの中から1つ選択)

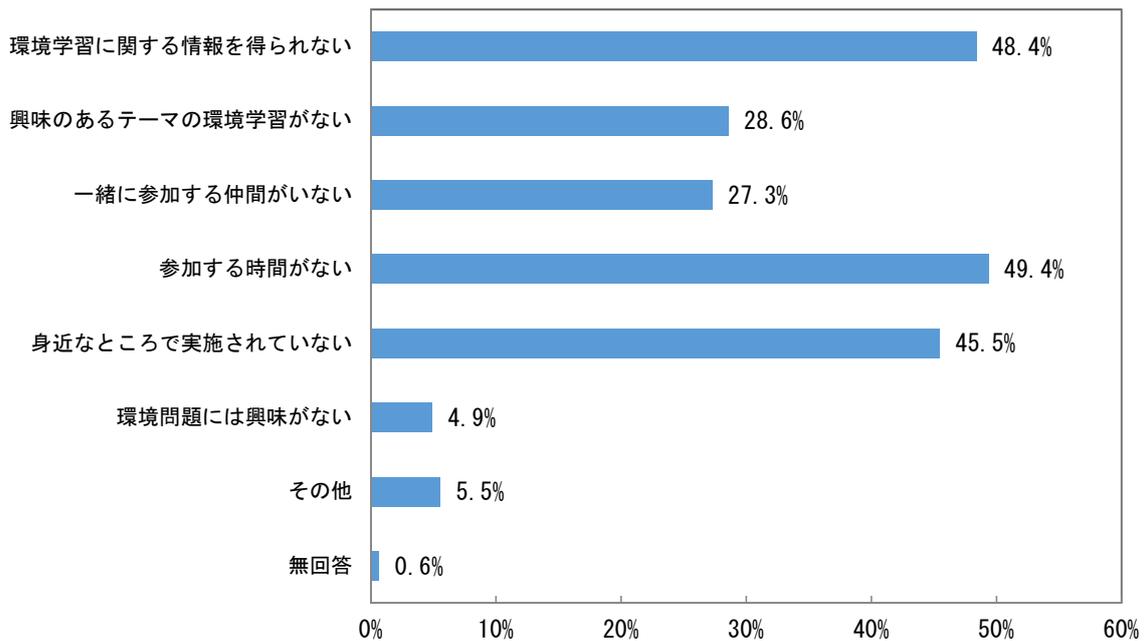
「参加していないが、今後機会があれば参加したいと思っている」と答えた方が最も多く(61.6%)、次いで「参加していないし、今後も参加したいと思わない」(26.6%)、「参加した」(10.6%)の順となっている。



【問4】地域で実施される環境学習について

(問3で「参加していないが、今後機会があれば参加したいと思っている」または「参加していないし、今後も参加したいと思わない」と答えた場合、参加していない理由を、7つの答えの中から3つまで選択)

「参加する時間がない」と答えた方が最も多く(49.4%)、次いで「環境学習に関する情報を得られない」(48.4%)、「身近なところで実施されていない」(45.5%)の順となっている。いずれの年代でも、この3項目を選択する割合は高い。

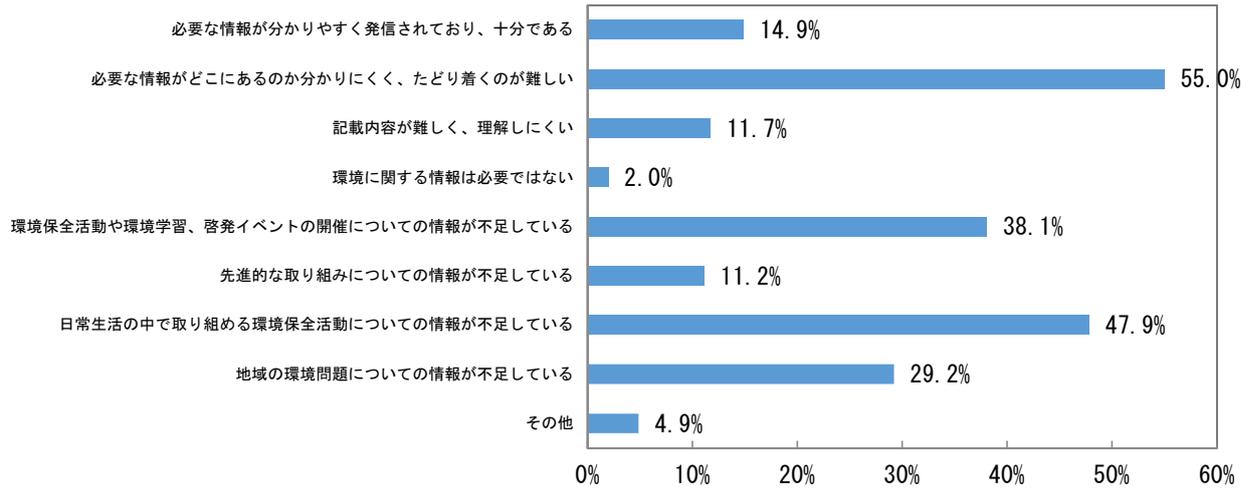


【問5】環境に関する情報発信について

(現在の発信状況についてどのように感じているかを、9つの答えの中から3つまで選択)

「必要な情報がどこにあるのか分かりにくく、たどり着くのが難しい」と答えた方が最も多く(55%)、次いで「日常生活の中で取り組める環境保全活動についての情報が不足している」(47.9%)、「環境保全活動や環境学習、啓発イベントの開催についての情報が不足している」(38.1%)の順となっている。

どの年代でも、この3項目を選択する割合は高い。

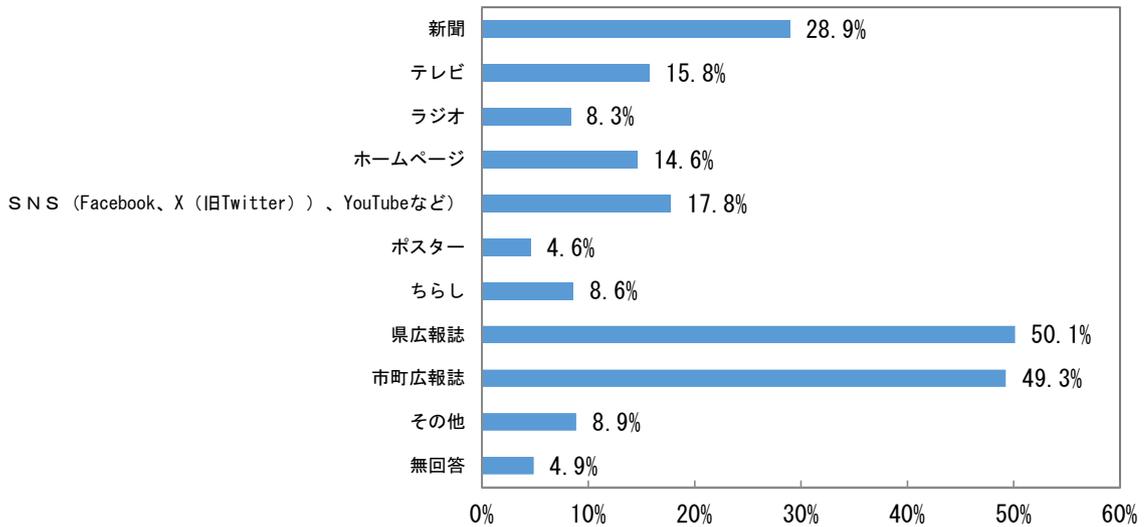


【問6】ボランティア等（環境保全活動、環境学習以外も含む）の実施について

(実施することを何で知ったのかを、10の答えの中からあてはまるものすべて選択)

「県広報誌」と答えた方が最も多く(50.1%)、次いで「市町広報誌」(49.3%)、「新聞」(28.9%)の順となっている。

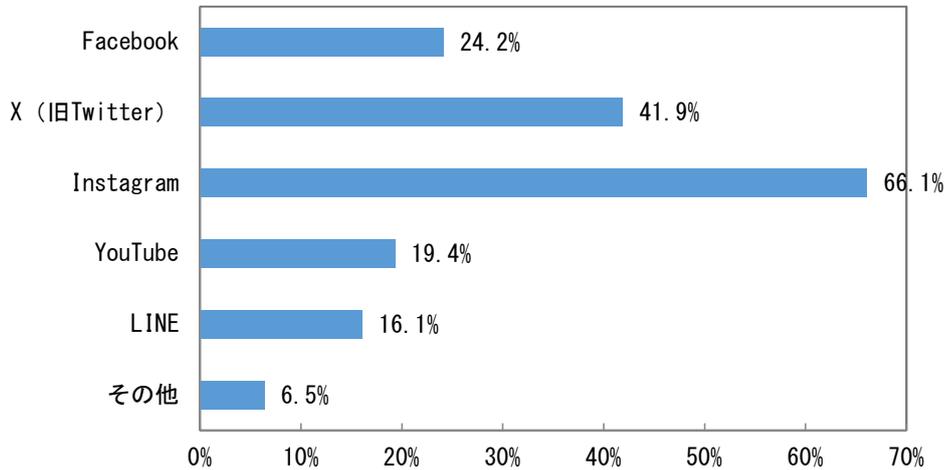
いずれの年代でも、「県広報誌」と答えた方が多いが、20代では「SNS」と答えた方が2番目に多い等、年代によって異なる傾向がみられる。



【問6-1】 ボランティア等（環境保全活動、環境学習以外も含む）の実施について

（問6で「SNS」と答えた場合、どのSNSを通じて知ったのかを6つの答えの中からあてはまるものすべて選択）

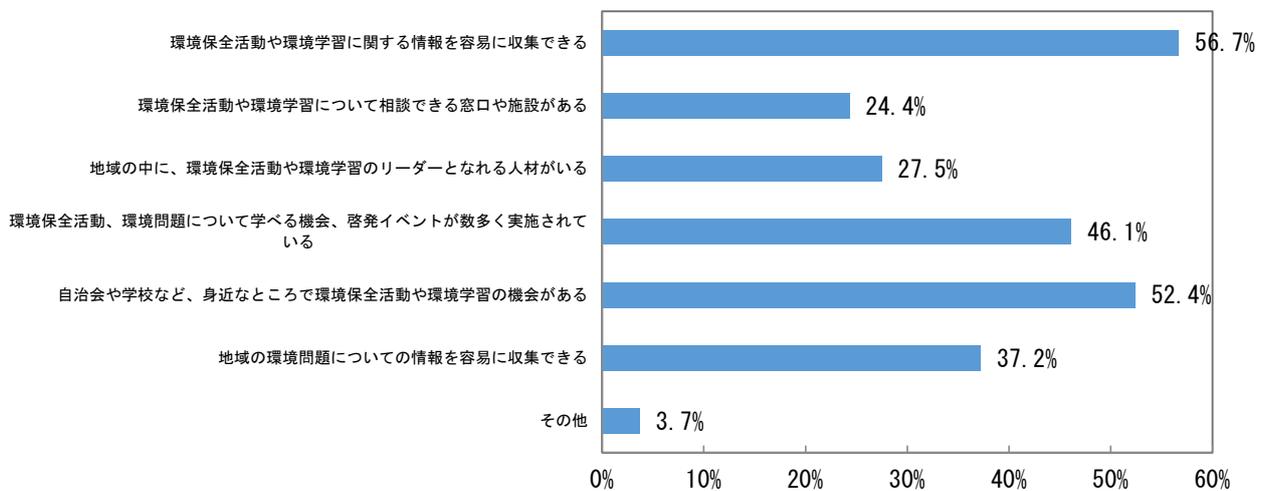
「Instagram」と答えた方が最も多く（66.1%）、次いで「X（旧Twitter）」（41.9%）、「Facebook」（24.2%）、「YouTube」（19.4%）の順となっている。



【問7】 環境を守り育てる地域づくりについて

（環境を守り育てる地域づくりに参加するためには何が必要かを、7つの答えの中から3つまで選択）

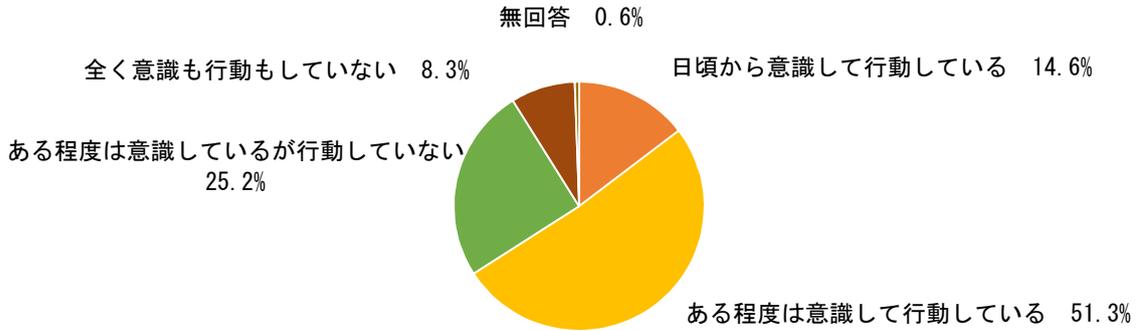
「環境保全活動や環境学習に関する情報を容易に収集できる」と答えた方が最も多く（56.7%）、次いで「自治会や学校など、身近なところで環境保全活動や環境学習の機会がある」（52.4%）、「環境保全活動、環境問題について学べる機会、啓発イベントが数多く実施されている」（46.1%）の順となっている。



【問8】 二酸化炭素の排出削減に向けた行動について

（「脱炭素」や「地球温暖化」を意識し、二酸化炭素の排出削減に向けた行動をしているかについて、4つの答えの中から1つ選択）

「ある程度は意識して行動している」と答えた方が最も多く（51.3%）、次いで「ある程度は意識しているが行動していない」（25.2%）、「日頃から意識して行動している」（14.6%）と続いている。一方で、「全く意識も行動もしていない」と答えた方は少なく、9割以上の方が「脱炭素」や「地球温暖化」をある程度は意識して生活していると思われる。

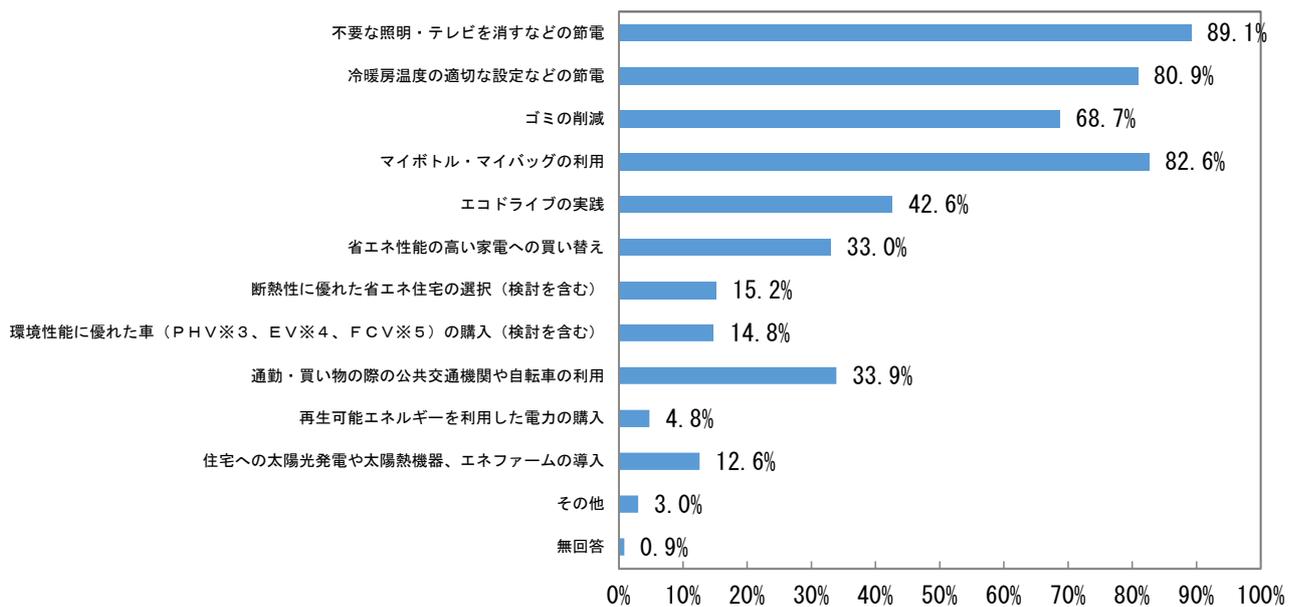


【問9】 二酸化炭素の排出削減に向けた行動について

（問8で「日頃から意識して行動している」または「ある程度は意識して行動している」と答えた場合、行動内容を12の答えの中からあてはまるものすべて選択）

「不要な照明・テレビを消すなどの節電」と答えた方が最も多く約9割の方が選択している（89.1%）。次いで「マイボトル・マイバッグの利用」（82.6%）、「冷暖房温度の適切な設定などの節電」（80.9%）の順となっており、いずれも8割を超えている。

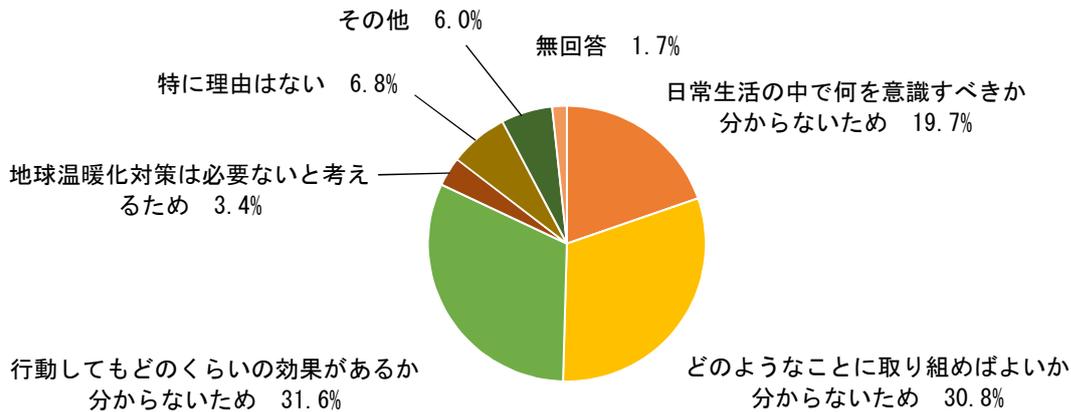
どの年代でも、この3項目を選択する割合が特に高い。



【問 10】 二酸化炭素の排出削減に向けた行動について

(問 8 で「ある程度は意識しているが行動していない」または「全く意識も行動もしていない」と答えた場合、その理由を 6 つの答えの中から 1 つ選択)

「行動してもどのくらいの効果があるか分からないため」と答えた方が最も多く (31.6%)、次いで「どのようなことに取り組みばよいか分からないため」(30.8%)、「日常生活の中で何を意識すべきか分からないため」(19.7%) の順となっている。

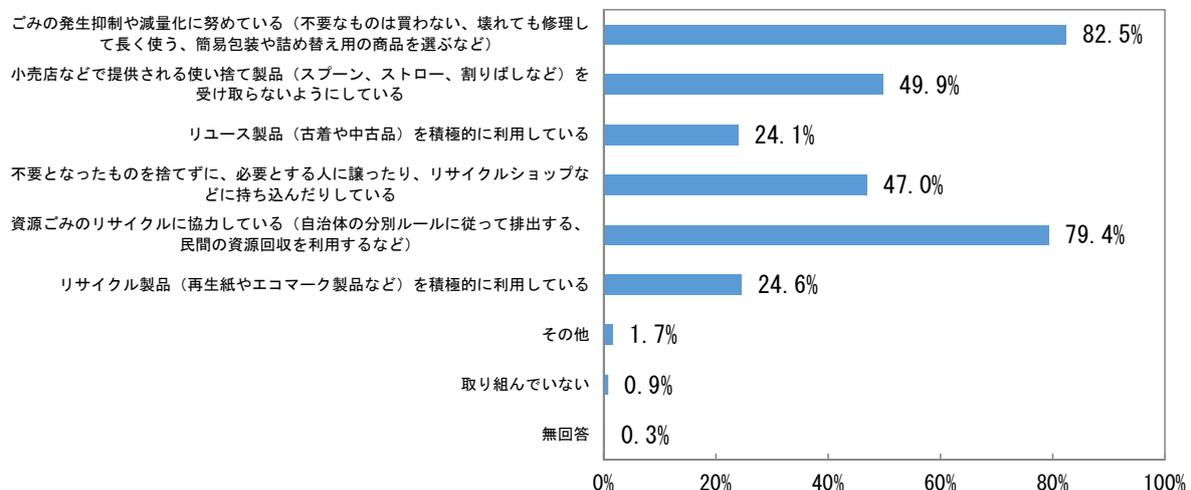


【問 11】 3 R の推進について

(積極的に取り組んでいると思う内容を、8 つの答えの中からあてはまるものすべて選択)

「ごみの発生抑制や減量化に努めている (不要なものは買わない、壊れても修理して長く使う、簡易包装や詰め替え用の商品を選ぶなど)」と答えた方が最も多く (82.5%)、次いで「資源ごみのリサイクルに協力している (自治体の分別ルールに従って排出する、民間の資源回収を利用するなど)」(79.4%)、「小売店などで提供される使い捨て製品 (スプーン、ストロー、割りばしなど) を受け取らないようにしている」(49.9%)、「不要となったものを捨てずに、必要とする人に譲ったり、リサイクルショップなどに持ち込んだりしている」(47%) の順となっている。

どの年代でも、この 4 項目を選択する割合は高い。

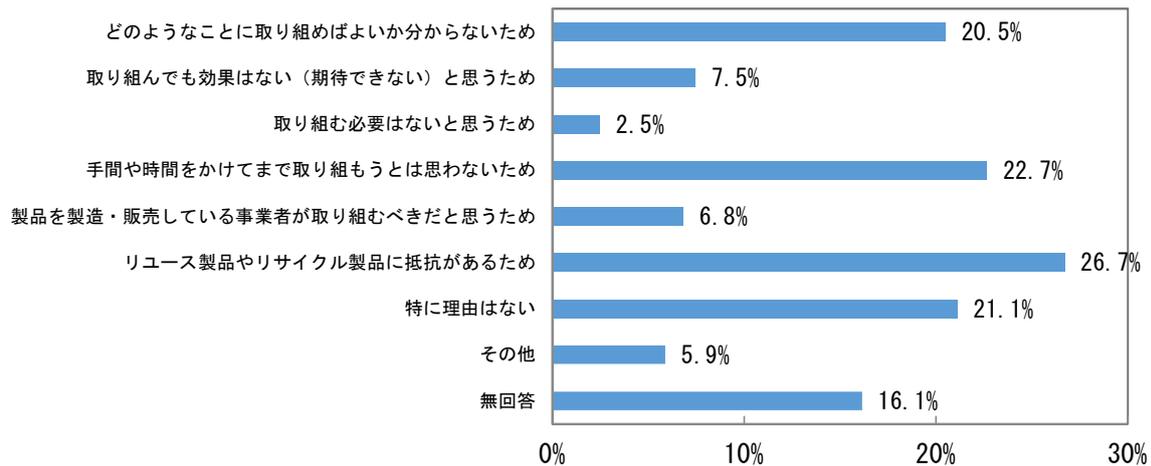


【問 12】 3 Rの推進について

(問 11 で積極的に取り組めていない選択肢があった場合、その理由を8つの答えの中から2つまで選択)

「リユース製品やリサイクル製品に抵抗があるため」と答えた方が最も多く(26.7%)、次いで「手間や時間をかけてまで取り組もうとは思わないため」(22.7%)、「特に理由はない」(21.1%)、「どのようなことに取り組めばよいか分からないため」(20.5%)の順となっている。

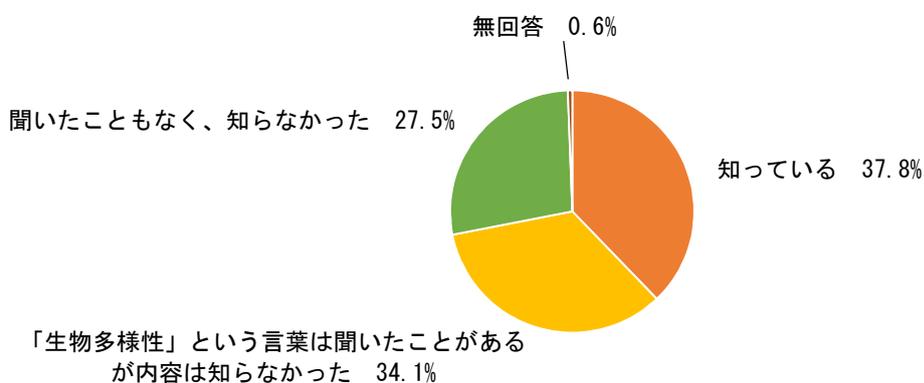
一方、どの年代でも、「取り組む必要はないと思うため」と答えた方は少ないことから、3 Rの必要性については理解している方が多いと思われる。



【問 13】 生物多様性について

(知っているかどうかについて、3つの答えの中から1つ選択)

「知っている」と答えた方が最も多く(37.8%)、次いで「「生物多様性」という言葉は聞いたことがあるが内容は知らなかった」(34.1%)と答えた方が多い。「聞いたこともなく、知らなかった」と答えた方の割合は全体では少ないものの(27.5%)、40代では「知っている」と答えた方の割合を上回っている。

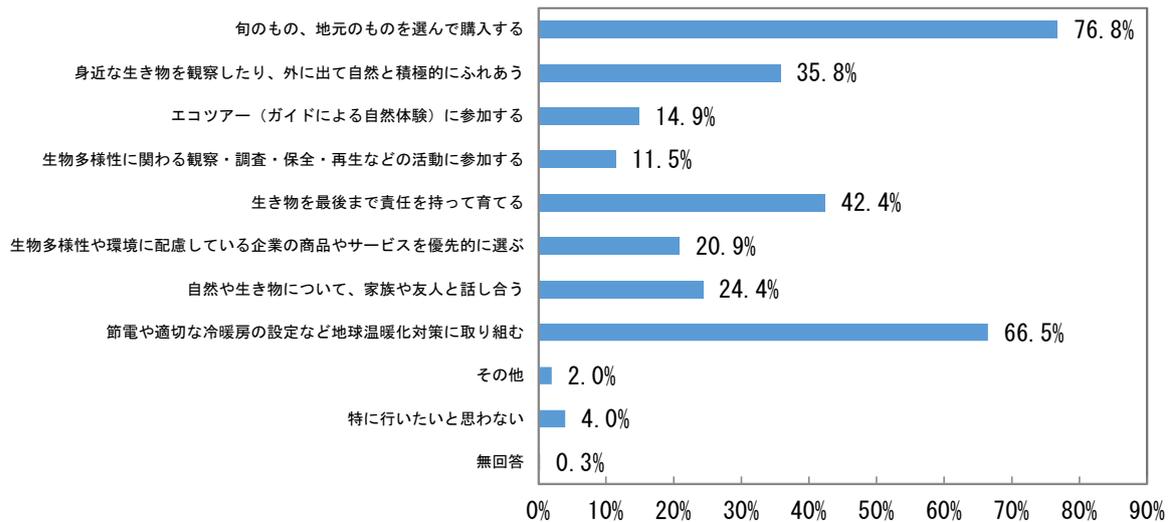


【問 14】 生物多様性に配慮した行動について

(既に取り組んでいる、または取り組んでみたいと思うことを、10 の答えの中からあてはまるものすべて選択)

「旬のもの、地元のものを選んで購入する」と答えた方が最も多く (76.8%)、次いで「節電や適切な冷暖房の設定など地球温暖化対策に取り組む」(66.5%)、「生き物を最後まで責任を持って育てる」(42.4%)、「身近な生き物を観察したり、外に出て自然と積極的にふれあう」(35.8%) の順となっている。

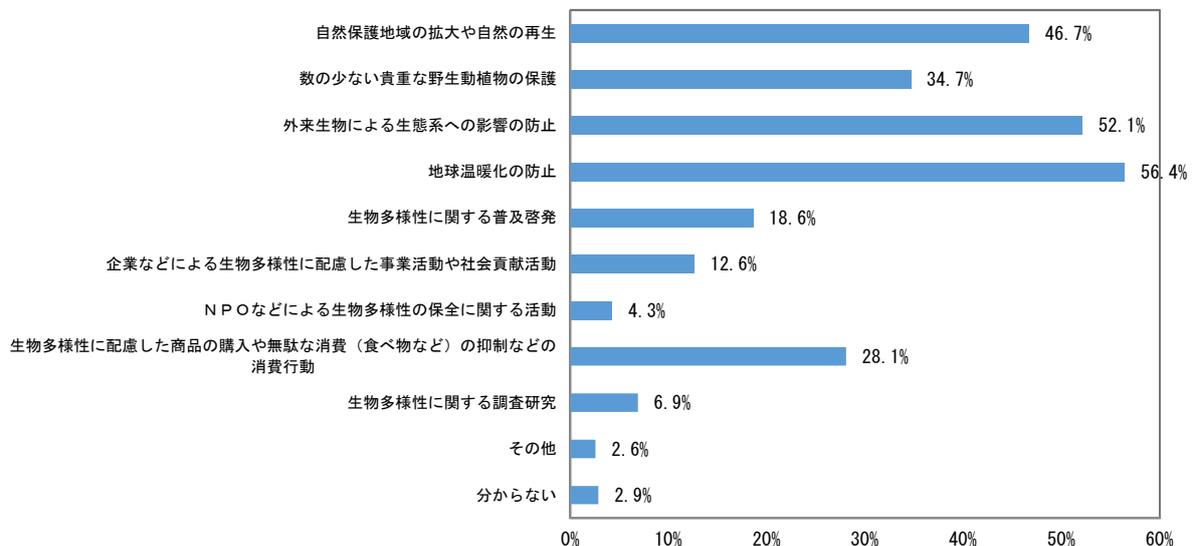
どの年代でも、この4項目を選択する割合は高い。



【問 15】 生物多様性の保全について

(重要だと考えることについて、11 の答えの中から3つまで選択)

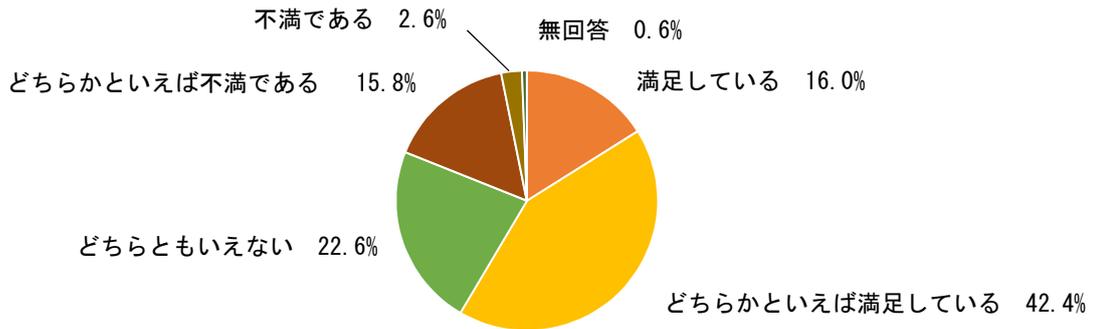
「地球温暖化の防止」と答えた方が最も多く (56.4%)、次いで「外来生物による生態系への影響の防止」(52.1%)、「自然保護地域の拡大や自然の再生」(46.7%) の順になっている。



【問 16】現在の生活環境（大気きれいさ・水きれいさ・騒音の少なさ）について

（満足しているかどうか、5つの答えの中から1つ選択）

「どちらかといえば満足している」と答えた方が最も多く（42.4%）、次いで「どちらともいえない」（22.6%）、「満足している」（16%）の順になっている。満足している人の割合は約6割（「満足している」及び「どちらかといえば満足している」と答えた人の合計）。

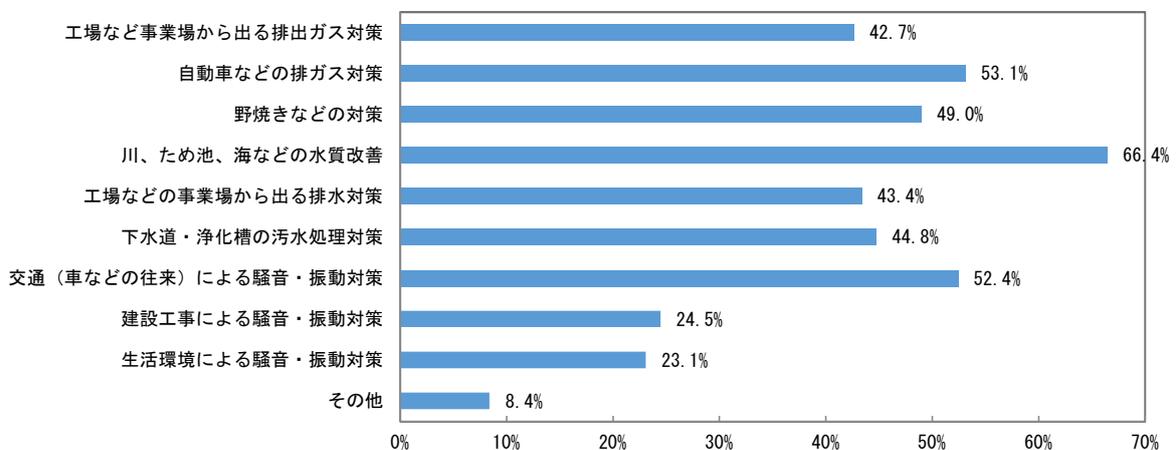


【問 17】現在の生活環境（大気きれいさ・水きれいさ・騒音の少なさ）について

（問 16 で「どちらともいえない」、「どちらかといえば不満である」または「不満である」と答えた場合、生活環境の向上のために今後必要だと思われる施策について、10の答えの中からあてはまるものすべて選択）

「川、ため池、海などの水質改善」と答えた方が最も多く（66.4%）、次いで「自動車などの排ガス対策」（53.1%）、「交通（車などの往来）による騒音・振動対策」（52.4%）、「野焼きなどの対策」（49%）の順になっている。

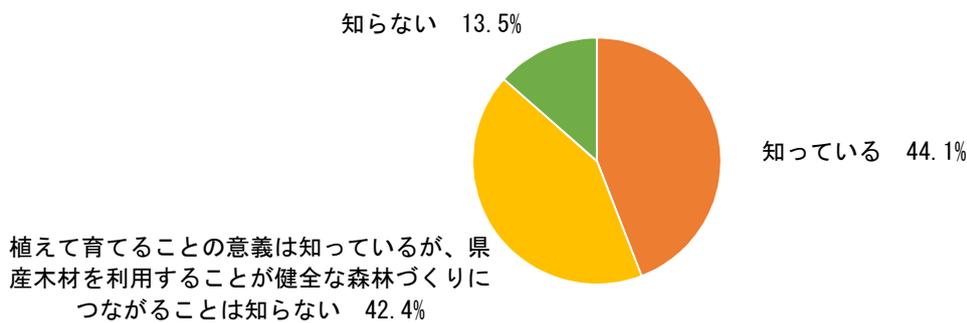
どの年代でも、この4項目を選択する割合は高い。



【問 18】 県産木材について

(計画的に植林して育てるだけでなく、県内の森林から生産される木材を利用することが、循環が保たれた健全な森林づくりにつながることを知っているかについて、3つの答えの中から1つ選択)

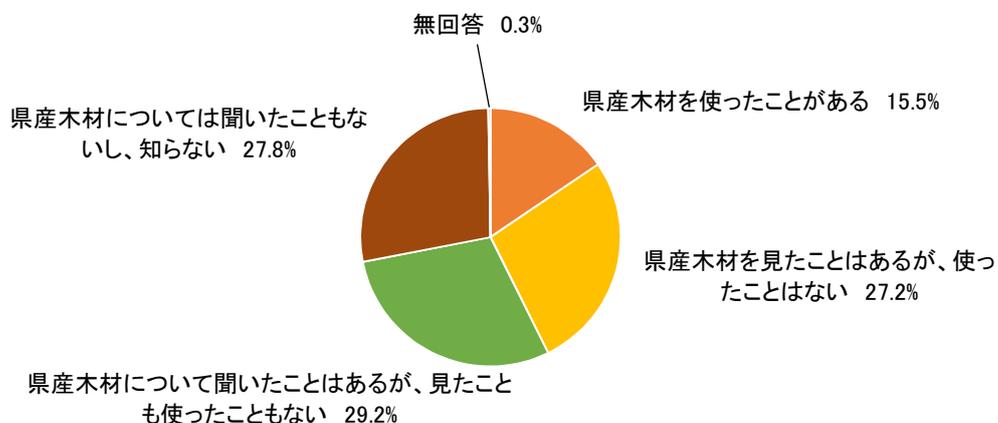
「知っている」と答えた方が最も多く (44.1%)、次いで「植えて育てることの意義は知っているが、県産木材を利用することが健全な森林づくりにつながることは知らない」(42.4%)、「知らない」(13.5%)の順になっている。



【問 19】 県産木材の利用について

(県産木材を見たり使ったりしたことがあるかについて、4つの答えの中から1つ選択)

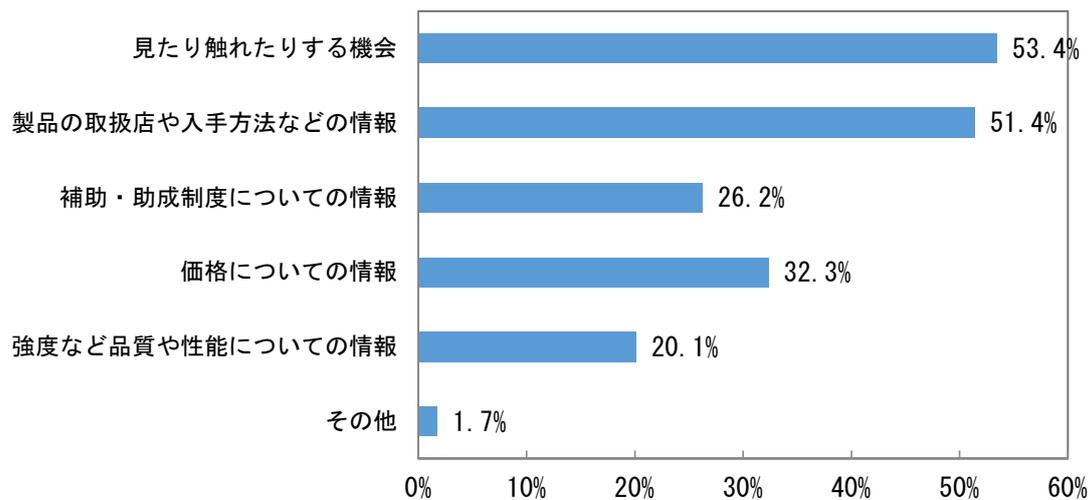
「県産木材について聞いたことはあるが、見たことも使ったこともない」と答えた方が最も多く (29.2%)、次いで「県産木材については聞いたこともないし、知らない」(27.8%)、「県産木材を見たことはあるが、使ったことはない」(27.2%)、の順になっており、「県産木材を使ったことがある」が最も少ない (15.5%)。



【問 20】 県産木材の利用について

(問 19 で「県産木材を見たことはあるが、使ったことはない」、「県産木材について聞いたことはあるが、見たことも使ったこともない」または「県産木材については聞いたこともないし、知らない」と答えた場合、県産木材について、どのような機会や情報があれば使ってみたいと思うかについて、6つの答えの中から2つまで選択)

「見たり触れたりする機会」と答えた方が最も多く (53.4%)、次いで「製品の取扱店や入手方法などの情報」(51.4%)、「価格についての情報」(32.3%) の順になっている。

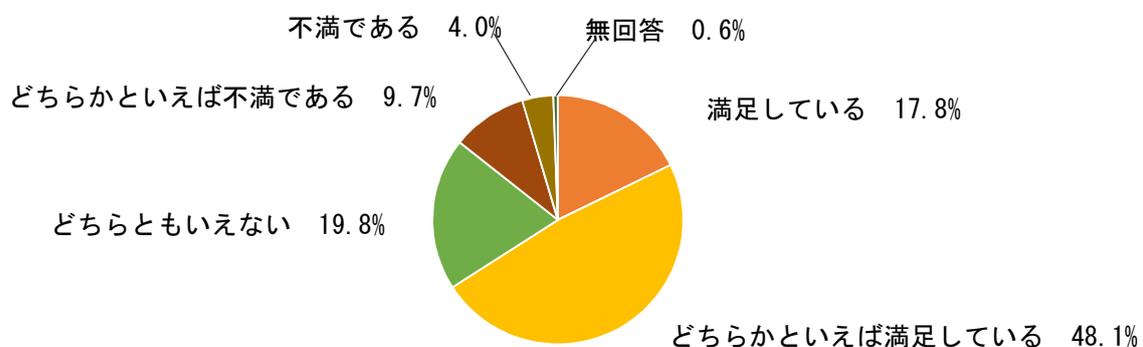


【問 21】 香川県のみどり（森林・公園など）について

(満足しているかについて、5つの答えの中から1つ選択)

満足している人の割合は6割以上(「満足している(17.8%)」と「どちらかといえば満足している(48.1%)」と答えた方の合計)。特に若い世代では、満足していると答えた方の割合が高い傾向がある。

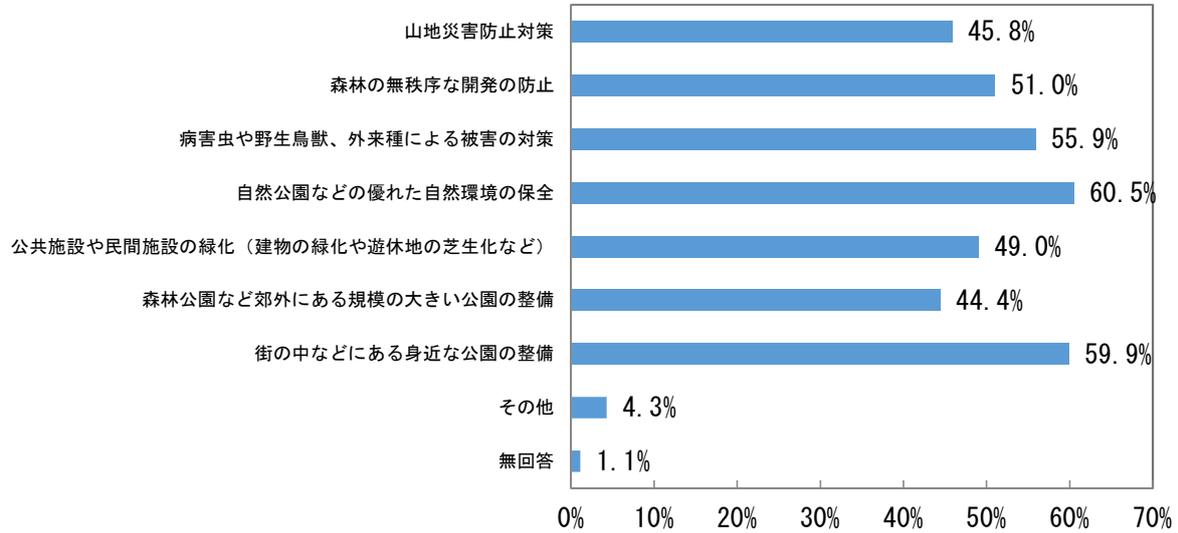
(10代：100%、20代：89%)



【問 22】香川県のみどり（森林・公園など）の充実に向けた県の施策について

（期待するものを8つの答えの中からすべて選択）

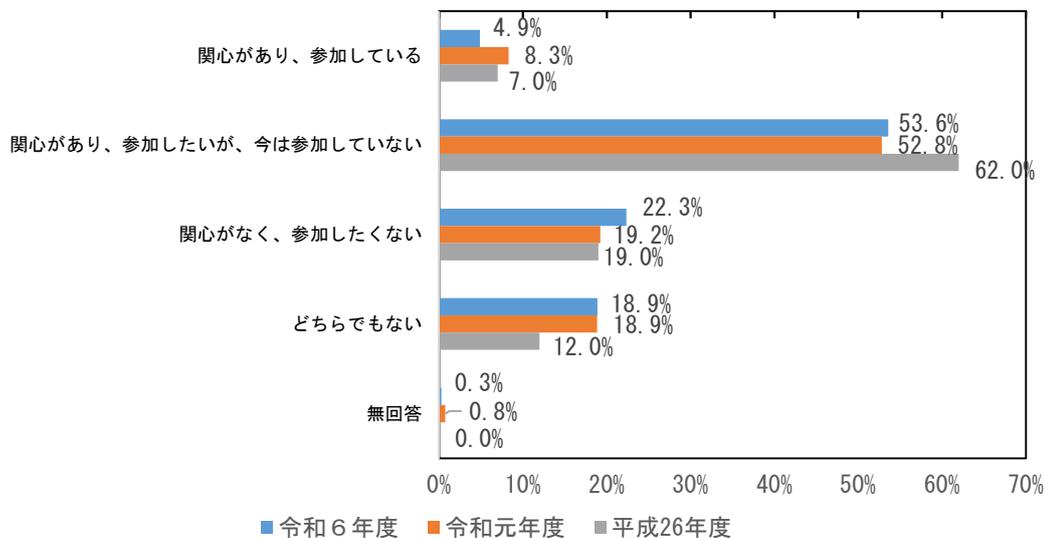
「自然公園などの優れた自然環境の保全」と答えた方が最も多く（60.5%）、次いで「街の中などにある身近な公園の整備」（59.9%）、「病虫害や野生鳥獣、外来種による被害の対策」（55.9%）の順となっている。



【問 23】森林ボランティア活動について

（関心があるか、参加したいと思うかについて、4つの答えの中から1つ選択）

「関心があり、参加したいが、今は参加していない」と答えた方が最も多く（53.6%）、次いで「関心がなく、参加したくない」（22.3%）が続く。



【問 24】 森林ボランティア活動について

(問 23 で「関心があり、参加したいが、今は参加していない」と答えた場合、その理由について、5つの答えの中1つ選択)

「ボランティア活動がいつ、どこで開催されているか分からないなど、きっかけがない」と答えた方が最も多く(42.2%)、次いで「育児や仕事などで忙しい」(26.7%)、「年齢や健康上の理由」(23.5%)の順となっている。

